

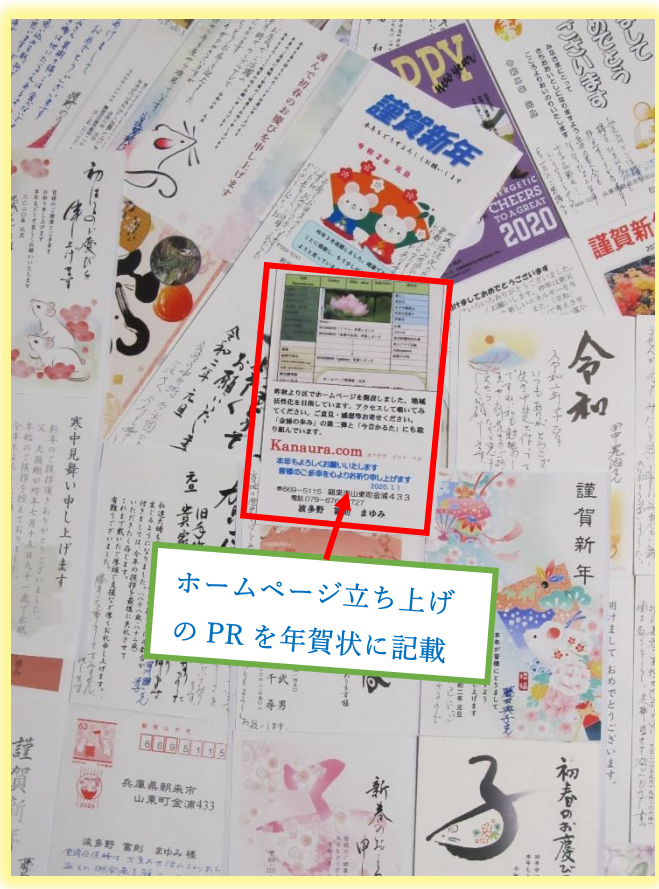


年賀状事情

退職してから10年が過ぎ古希を迎えた。現職の頃と比べて年賀状の数はほぼ変わらずである。300枚程度である。少しずつ減らしていこうと思って、疎遠になっている方には出さないでいると例年通りに届くので、つい返してしまう。こんな具合だから一向に減る気配もない。70歳を超える方で「次年度より念頭のご挨拶を失礼することに致しました」と書かれた年賀状が幾つかあった。

年賀状も最近では、パソコンで作成することが主流になり機械的で温もりを感じにくくなってしまった。私もそうなのだが、せめてもと思い近況報告を兼ねたコメントを書くことにしている。相手の方も同様に書いてこられることが多い。しかし、一度目を通しはするが時間が経過すると記憶に残ることは稀だったと思う。

しかし今年の場合は、じっくりと読めば自分にとっても有益な事柄が多いのに気付いたのである。例えば、こちらのコメントに昨年完成発刊させた「わが故郷の記録：金浦の歩み」のこと、今年は区でホームページを立ち上げたことを書いた。すると届いた年賀状には、編集の労をねぎらった言葉や同じように郷土編集を考えているとか、冊子を送ったお礼、冊子の購入希望、郷土史情報等が書かれていた。嬉しい限りである。



また、注意深くコメントを読むと、健康づくり・趣味と実益・老人クラブの活動・役員の苦勞談・ボランティア活動・農業経営と悩み・野菜栽培・獣害被害・勤務の様子・家族の近況や出来事等について書かれて

ており、それらは長年の人生経験から得られたであろう「光る言葉」が多く見られた。特に今年は意識したせいか為になるコメントが多くあった。そのまま埋もれさせるのはもったいないなと強く思った次第である。

そこで、参考になりそうな賀状を40点ほど選んで、A4用紙に4枚ずつ貼ってコピーすることにした。これからも少し面倒だけれど、欠かさず年賀状にコメントを書いていこうと思っている。そして、賀状を交換する方々の機微やひだにふれる言葉に出会うのを楽しみにしながら、それによって少しでも自分が高められたらいいと思うし、「一年の計」を立てるのにも役立つだろう。少し大袈裟だが、年賀状は自分の人生を豊かなものにしてくれるものだった年の初めであった。

